

## 第6回静岡フォーラム顛末記

第6回静岡フォーラムが、化学工学会東海支部の第59回研究談話会と共同主催で10月28日、“最近の超臨界流体利用技術－動向と展望－”というテーマで開催された。下記に案内文を再録します。

-----  
第6回静岡フォーラム／第59回研究談話会

最近の超臨界流体利用技術－動向と展望－

主催 静岡化学工学懇話会・化学工学会東海支部

協賛 静岡大学工学部・静岡県資源環境技術研究会・分離技術会

日時 平成10年10月28日(水) 10:00～19:00

会場 アクトシティ浜松・研修交流センター401 (Tel:053-451-1112)

超臨界流体を用いる技術については、かなり以前からその有用性に注目されてきているが、その実用化についての理解がなかなか困難なようである。そこで、その基礎から、先端の実際の応用例およびこれからの展望について、斯界でご活躍の講師の先生方にお話ししていただき、討論する予定です。討論時間(各テーマ15分位、コーヒーブレイク、懇談会)を十分とっておりますので、是非ご参加下さい。

### プログラム

1. 物理化学からみた超臨界状態 (10:00～11:00)  
名古屋大学・野村浩康氏
2. 超臨界CO<sub>2</sub>を用いた分離プロセスの開発 (11:00～12:00)  
東京都立大学・長浜邦雄氏
3. 超臨界流体を用いた抽出分離の実用化 (13:00～14:00)  
住友精化(株)・浜谷和弘氏
4. 超臨界水の利用技術 (14:00～15:00)  
オルガノ(株)・鈴木明氏
5. コーヒーブレイク (15:00～15:30)
6. 超臨界CO<sub>2</sub>, N<sub>2</sub>による発泡樹脂の製造 (15:30～16:30)  
広島大学・舩岡弘勝氏
7. 総括討論(懇談会) (17:00～19:00)

-----  
テーマが超臨界流体利用技術ということで、将来に期待の持てる興味のあるテーマであったこと、また協賛各会に参加依頼をお願いしたためか、予定を越える59名の参加の申し込みを頂き、一部学生さんの参加をお断りするくらいであった。(静岡大学工学部工学振興基金からも一部援助を頂きました。)

トップの野村先生のご講演は、格調が高く数式も多く難解でしたが、後は一般論を交え、特に企業の講師の先生は、開発のご苦勞を中心にお話しされ非常に解りやすく面白い講演会であった。

今回は、各先生の講演の後で、簡単な質問でも出来るよう多くの質問時間をと考え1テーマ当たり1時間と長く採った。しかしながら、それぞれの先生が熱弁され、殆ど質問時間がなくなる位迄話された。やはり質疑応答の時間を別個にとった方が、良さそうに思われた。

懇談会場（アーシェントタイム）が講演会場と少し離れていたためか、出席者全員の参加が得られず、また独立した部屋でなくまた立席でなかったため、全体的というよりで、個別のテーブルで大変熱心に懇談されていたようであった。予定の19:00を1時間近く越えて懇談するなど、大変盛会裡に本フォーラムを終えることが出来た。また当日は、天気も大変良く爽やかで、有意義な一日であった。

(静岡大学工学部 野田 勝嗣 記)

